

平成27年11月11日

平成27年度第7回定例記者会見のお知らせ

日時:平成27年11月17日(火)11:00~12:00

場所: 豊橋技術科学大学事務局3階 大会議室

<記者会見項目予定>

- ① 超音波顕微鏡で細胞の内部状態を可視化するがんの術中診断・抗がん剤の検証に、強力ツール (別紙1参照) 【環境・生命工学系 吉田祥子講師 / 国際協力センター 穂積直裕教授】
- ② 画像処理技術を用いたツリー型イルミネーションの調光演出技術 【情報・知能工学系 栗山 繁教授】 (別紙2参照)
- ③ 豊橋技術科学大学シンポジウム『未来への挑戦』〜新たなステージに立つ〜 開催 【研究推進アドミニストレーションセンター】 (別紙3参照)
- ④ 安全安心地域共創リサーチセンター シンポジウム つながる防災・減災シンポジウム ~震災に学び、地域がつながる、未来に つながる~【安全安心地域共創リサーチセンター】(別紙4参照)
- ⑤ 未来ビークルシティリサーチセンター 第19回シンポジウム 「電池が支える地域社会の未来のかたち」【未来ビークルシティリサーチセンター】(別紙5参照)
- ⑥ EIIRIS プロジェクト研究成果報告会 一未来創造における価値の変革とイノベーションー(別紙6参照)
- ⑦ 次回の定例記者会見の開催日程について (別紙7参照)

多くの方々のご出席をお待ちしております。

<本件連絡先> 総務課広報係 萩平・高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506 FAX:0532-44-6509



平成27年11月11日

超音波顕微鏡で細胞の内部状態を可視化する がんの術中診断・抗がん剤の検証に、強カツール

豊橋技術科学大学と本多電子株式会社は、高周波の超音波を用いて、生きた細胞の中の状態変化を観察する、音響インピーダンス顕微鏡を開発しました。これによって、細胞が生きた状態のまま、抗がん剤や検査試薬による変化を観察できます。がんの広がりを術中診断する技術、抗がん剤の効果を検証する技術として、国際共同研究をすすめています。

<研究経緯・研究組織・研究内容・今後の展開>

超音波観察装置は、生体に影響を与えずに組織の状態を観察できることから、胎児の観察から臓器の診断まで多くの医療技術に用いられています。私たちは**医療用に用いられている超音波の 400 倍以上の高周波超音波を用い、細胞の中の状態を「音」で可視化する超音波顕微鏡を開発しました。**大変高い音を使いますが、水の中にいる細胞に悪い影響を及ぼすことはありません。超音波顕微鏡をもちいることで、細胞が生きた状態のまま、なんら色素染色せずに、細胞のなかの構造タンパク質の変化を観察することができます。

細胞の中には、かたちを整えたり、細胞増殖をコントロールしている線維状のたんぱく質=細胞骨格、が分布しています。超音波顕微鏡は、細胞の中の物質密度や 粘弾性を利用して画像化するため、細胞骨格を観察するのに優れたツールです。一 方がん細胞は、増殖能が過剰になっているため正常な細胞と細胞骨格の安定性が異なっていることが知られています。

この性質を利用して、私たちは混在した正常細胞-がん細胞集団から、がん細胞を識別する技術を開発しました。

超音波でみた培養正常細胞(図1 glia 細胞)と培養がん細胞(同 glioma 細胞)は、いずれも細胞核と細胞内に高い音響インピーダンスを示すことが観察できます。

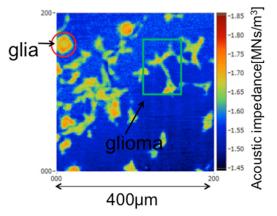


図1 正常細胞-がん細胞混在培養の超音波顕微鏡像

正常細胞-がん細胞集団に、細胞骨格を不安定化する試薬を投与すると、短時間の間でがん細胞だけが不安定化する様子が観察されました(図2glioma)。がんの診断、および手術中にがんの浸潤範囲を確定するためには生きた組織を採取して検査するバイオプシーが必要です。現在は組織を固定、染色して熟練の病理医が診断を下しています。

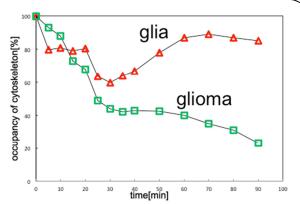
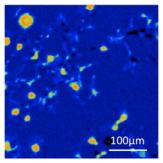


図2 正常細胞とがん細胞の試薬に対する変化

私たちの技術は、**細胞が生きたまま、組織に触れること無く状態変化を観察できる** ため、バイオプシー試料の病理検査に大きく貢献できると考えられます。現在、カナダ・ウィンザー大学とがんの病理診断システムの開発についての共同研究をすすめています。

さらに、正常細胞に蛍光たんぱく 質を発現する細胞を用いることで、 各種の抗がん剤が正常細胞とがん 細胞のどちらにどの程度影響した か追跡することができます。今回の 試薬を2時間投与した結果、ダメー ジの少なかった細胞はすべて蛍光 たんぱくを発現した正常細胞でし



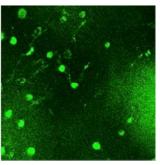


図3 試薬投与後の超音波像(左)と蛍光顕微鏡像(右)

た。これを応用して、抗がん剤の効力を検証することができます。

超音波顕微鏡は、光を用いた従来の顕微鏡とは異なる物性情報を与えてくれるツールです。現在、電子工学・細胞工学の技術を医療の現場に応用するツールとなるように、実用化へ向かって研究をすすめています。

本件に関する連絡先

担当:環境・生命工学系 吉田祥子 TEL:0532-44-6802

国際協力センター 穂積直裕 TEL:0532-81-5151

広報担当:総務課広報係 高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506



平成27年11月11日

画像処理技術を用いた ツリー型イルミネーションの調光演出技術

クリスマスツリー等の立体造形物を装飾するイルミネーションに画像を自動投影する、 「イルミネーション・マッピング技術」を豊橋の企業と共同開発し、クリスマス期間中に 豊橋駅前にて展示します。

<研究経緯・研究組織・研究内容・今後の展開>

豊橋市イノベーション創出等支援事業における(株)サイエンス・クリエイト、(株)フカミおよび本学情報・知能工学系グラフィックメディア研究室の産官学共同による製品開発事業です。デジタル調光技術と画像処理技術を応用して、3次元空間に不規則に配置されたイルミネーション用カラーLED 光源の色調光を、イラスト画像からの情報に基づいて制御するシステムを開発しています。

近年注目を集めているプロジェクション・マッピングが 3次元的な投影面の形状測定と画像の幾何的補正技術を応用しているのに対して、この技術は<u>点光源の3次元的な位置測定と画像のサンプリング補正技術を応用する新技術です。すなわち、デジタル画像化されたイラストのデータを3次元的に構築されたイルミネーションの点灯パターンに</u>自動変換する高度 IT 技術です。

今回、製品化を目指して現在開発中のシステムを、豊橋 駅前の広場において例年展示されるクリスマス用のイルミ ネーションの一部として展示することとなりました。拍手



音を用いた対話的な調光を開発し、通りすがりの誰もが気軽に楽しめる娯楽的な演出を実現します。

本件に関する連絡先

担当:情報・知能工学系 栗山繁 TEL:0532-44-6737 広報担当:総務課広報係 高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506



平成27年11月11日

豊橋技術科学大学シンポジウム『未来への挑戦』 〜新たなステージに立つ〜 開催

豊橋技術科学大学は、文部科学省の研究大学強化促進事業に採択されているほか、異分野融合研究推進の拠点としてエレクトロニクス先端融合研究所を設置して、いくつかの独創的な研究成果を挙げています。さらに、今年度は国内外トップレベルの研究機関と、先端共同研究ラボラトリーを学内に2拠点設置しました。

本学の未来への挑戦に向けた研究指針を発信するシンポジウムへぜひご参加ください。

日 時: 平成28年1月21日(木)10時30分~17時00分

会 場: 東京丸の内 MY PLAZA ホール (東京都千代田区丸の内 2-1-1)

参加費: 無料 (情報交換会費 4,000 円)

プログラム

10:30 開会

主催者挨拶 豊橋技術科学大学 理事・副学長 大貝 彰 来賓ご挨拶 文部科学省研究振興局学術研究助成課長 鈴木敏之 氏

【第1部 異分野融合研究とミニマルファブリケーション】

10:50 挨 拶 豊橋技術科学大学 副学長(研究担当) 石田 誠

11:00 招待講演

「ミニマルファブリケーション -産業が"Individual"になる-」 産業技術総合研究所・ナノエルクトロニクス研究部門ミマルシステムク・ループ・研究カ・ループ・長 原 史朗氏

11:30 研究成果報告(豊橋技術科学大学)

「脳のためのエレクトロニクス」 准教授 河野剛士

「表面プラズモンと光・電子融合回路」教授 福田光男

「TEM用液中ナノ観察カプセル開発」 テニュアトラック助教 高村 司、客員教授 Adarsh Sandhu 「異分野融合研究におけるセンサ開発」教授 澤田和明

12:30 昼食休憩・研究ハイライト紹介(ポスター展示)

【第2部 人工知能の未来 ~機械は意識を持つか~】

13:45 挨 拶 豊橋技術科学大学長 大西 隆

14:00 招待講演

「ロボットは意識を持ち得るか?〜身体化した知性と「来歴」〜」 米カリフォルニア工科大学ボルティモア冠教授・こころの認知脳科学研究施設特別招聘教授

Prof. Shinsuke Shimojo

14:20 招待講演

「考えるコンンピュータは実現するか」

公立はこだて未来大学教授・人工知能学会会長 松原 仁氏

15:20 ディスカッション「機械は意識を持つか」

Shinsuke Shimojo 氏、松原 仁氏、髙橋英之氏(大阪大学特任助教) (進行役:豊橋技術科学大学 教授 中内茂樹)

17:00 閉会

17:30 情報交換会

本件に関する連絡先

担当:研究推進アドミニストレーションセンター TEL:0532-44-1561

広報担当:総務課広報係 高柳·梅藤 TEL:0532-44-6506

異分野融合研究と

、工知能の未来

文部科学省研究大学強化促進事業

技術科学大学シンポジウム

新たなステージに立つ

豊橋技術科学大学は、文部科学省の研究大学強化 促進事業に採択されているほか、異分野融合研究推 進の拠点としてエレクトロニクス先端融合研究所を 設置して、いくつかの独創的な研究成果を挙げていま す。さらに、今年度は国内外トップレベルの研究機関

と先端共同研究ラボラトリーを 学内に2拠点設置しました。

本学の未来への挑戦に向け た研究指針を発信するシンポジ ウムヘぜひご参加ください。

> 豊橋技術科学大学学長 大西 隆

主催者挨拶 豊橋技術科学大学 理事・副学長 大貝 彰 来賓ご挨拶 文部科学省 研究振興局学術研究助成課長 鈴木 敏之氏

異分野融合研究とミニマルファブリケーション

豊橋技術科学大学 副学長 石田 誠 挨拶

▶招待講演 ミニマルファブリケーション一産業が"Individual"になる

産業技術総合研究所ナノエレクトロニクス研究部門 ミニマルシステムグループ・研究グループ長

原 史朗氏

開会挨拶

▶異分野融合研究 成果報告 4件(豊橋技術科学大学)

(1) 脳のためのエレクトロニクス 河野剛士准教授 (2) 表面プラズモンと光・電子融合回路 福田光男教授 (3) TEM用液中ナノ観察カプセル開発 高村司テニュアトラック助教、A.Sandhu客員教授 (4) 異分野融合研究におけるセンサ開発 澤田和明教授

昼食休憩 豊橋技術科学大学研究ハイライト紹介(ポスターセッション)

第2部 人工知能の未来:機械は意識を持つか

挨拶 豊橋技術科学大学 学長 大西隆

▶招待講演1 ロボットは意識を持ち得るか?一身体化した知性と「来歴」

豊橋技術科学大学 こころの認知脳科学研究施設特別招聘教授 米カリフォルニア工科大学 ボルティモア冠教授

Shinsuke Shimojo氏

▶招待講演2 考えるコンピューターは実現するか

公立はこだて未来大学 教授

人工知能学会会長 松原 仁氏

▶ディスカッション「機械は意識を持つか」

Shinsuke Shimojo氏、 松原 仁氏、 高橋 英之氏(大阪大学 特任助教)、 中内 茂樹(豊橋技術科学大学

▶シンポジウム後情報交換会 17:30

平成28年

10:30~17:00 (開場10:00)

東京丸の内 MY PLAZA ホール

東京都千代田区丸の内2-1-1 電話: 03-5219-5602 http://www.myplaza.jp/about.html

参加費:無料

(講演後情報交換会参加費:4,000円程度)

お申込方法:

http://www.tut.ac.jp/ event/160121-8581.html

お申込期限:平成28年1月14日(木) (期限前でも定員に達し次第締め切ります)

定員:300人

主催:国立大学法人豊橋技術科学大学

お問い合せ先:

国立大学法人豊橋技術科学大学

研究推進アドミニストレーションセンター事務室 電話: 0532-44-1561 FAX: 0532-81-5172

E-mail: office@rac.tut.ac.jp



10:30

10:50

11:00

11:30

12:30

13:45

14:00



14:20

15:20



平成27年11月11日

安全安心地域共創リサーチセンター シンポジウム

つながる防災・減災シンポジウム ~震災に学び、地域がつながる、未来につながる~

豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター(齊藤大樹センター長)は、12月8日(火)に、以下のとおりシンポジウムを開催します。

つながる防災・減災シンポジウム

~震災に学び、地域がつながる、未来につながる~

日 時:平成27年12月8日(火)13:00~17:00 会 場:穂の国とよはし芸術劇場「プラット」 アートスペース

参加費:無料(定員:200名)

主 催:豊橋技術科学大学 安全安心地域共創リサーチセンター

*プログラム、申込み方法等詳細はチラシをご覧ください

日本大震災から5年が過ぎようとしています。復興はまだ道半ばです。一方、次の震災への備えも疎かにはできません。個人や企業等が防災・減災を個別に取り組むのではなく、お互いの経験や活動成果を共有する地域のつながりが、未来の安全安心につながると考えます。

本シンポジウムでは、基調講演に日本建築学会会長の中島正愛先生をお迎えし、つながる防災・減災をテーマに、震災の経験を踏まえ、いかに地域が連携して防災・減災に取り組むべきかを皆さんと一緒に考えます。

本件に関する連絡先

担当:安全安心地域共創リサーチセンター 穂苅 TEL:0532-81-5157 広報担当:総務課広報係 高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506 安全安心地域共創リサーチセンター 主催 シンポジウム



東日本大震災から

5年が過ぎようとしています。

復興はまだ道なかばです。一方で、

次の震災への備えも疎かにはできません。

個人や企業等が防災・減災を個別に取り組むの

ではなく、お互いの経験や活動成果を共有する地域

のつながりが未来の安全安心につながると考えます。

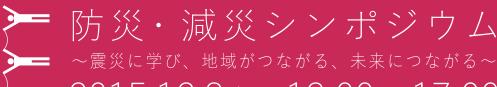
本シンポジウムでは、『つながる防災・減災』を

テーマに、震災の経験を踏まえ、いかに

地域が連携して防災・減災に取り組

むべきかを皆さんと一緒に考え

たいと思います。



- 2015.12.8 tue 13:00 - 17:00

@ 穂の国とよはし芸術劇場プラットアートスペース

13:00-13:30

大西 降 (豊橋技術科学大学長) 拶

斉藤大樹 (安全安心地域共創リサーチセンター長) 趣旨説明

13:30-14:30 基調講演

わが国防災・減災のこれから

- 求められる「文理融合」・「地域の自立と連携」・「産官学民協調」

中島正愛 (日本建築学会会長/京都大学防災研究所教授/内閣府 SIPプログラムディレクター)

話題提供

14:40-16:00

東北大学による被災地復興への取り組み

佐藤 (東北大学災害科学国際研究所教授)

企業の防災対策と地域連携

淳 (損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株)) 新藤

地域と連携した防災・減災の取り組み - 行政、及び関連会社との共生 -

酒井浩久 (トヨタ自動車(株) 田原工場)

パネルディスカッション 16:10-17:00 ※終了後、意見交換会(希望者のみ)

参加費無料 事前申込制

申 込 方 法 裏面の参加申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてご連絡ください。 問い合わせ 0532-81-5157(担当: 穂苅)

後援 東海圏減災研究コンソーシアム・国土交通省中部地方整備局・愛知県・豊橋市・豊川市・蒲郡市・田原市・豊橋商工会議所・(株) サイエンス・クリエイト・東三建設業協会 浦郡地区委員会防災部会・御津臨海企業懇話会・明海地区防災連絡協議会・神野地区防災自治会・田原臨海企業懇話会・自然災害研究協議会中部地区部会・環境共生技術研究会 つながる防災・減災シンポジウム ~震災に学び、地域がつながる、未来につながる~

申込書

この用紙に必要事項をご記入の上、faxか e-mailにてご連絡ください。

ふりがな				年	龄	
氏 名						歳
所属・役職						
電話番号						
e-mailアドレス または	e-mail		@			
fax番号	fax	-	_			
意見交換会 (会費3,000円程度)	参加・	不参加	(どちらかを○で	で囲んで下	「さい	١)

申込先

豊橋技術科学大学 安全安心地域共創リサーチセンター(研究支援課)

fax <u>0532-44-6568</u> e-mail <u>carm@office.tut.ac.jp</u>

豊橋技術科学大学 未来ビークルシティリサーチセンター 第19回シンポジウム

「電池が支える

地域社会の未来のかたち」

低炭素社会実現に向けて、高性能二次電池を用いた環境先進車両や自然エネルギー発電電力貯蔵システムの開発とその実用化・普及促進が、これまで以上に求められています。

本シンポジウムでは、車載用・定置用それぞれの用途に合わせて設計された高性能二次電池の開発・応用状況、二次電池に蓄えられた電力を家庭・町で有効活用する仕組み、それらを地域社会で組み合わせてスマートコミュニティーを形成する取り組み事例について、これら分野の第一線でご活躍中の方々にご講演頂きます。

日 時 : 平成27年12月3日(木) 13:30~16:20

会 場 : 豊橋技術科学大学 A-101講義室

(地図: http://www.tut.ac.jp/about/campusmap.html)

参加費無料 どなたでもご参加頂けます

主催: 豊橋技術科学大学 未来ビークルシティリサーチセンター

後援: 豊橋市、田原市、豊橋商工会議所、田原市商工会、東三河産業創出協議会

協賛: 電気化学会電池技術委員会、電気化学会東海支部、電気学会東海支部、

IEEE 名古屋支部、自動車技術会

申込先:豊橋技術科学大学 未来ビークルシティリサーチセンター

(研究支援課研究センター係)

TEL: 0532-44-6574 FAX: 0532-44-6568

e-mail: rcfvc@office.tut.ac.jp

★裏面の参加申込書で事前にお申し込みください



プログラム

13:30~13:35 開会挨拶

豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 教授 /未来ビークルシティリサーチセンター長 大平 孝

【講演1】 13:35~14:25

> 「車載用および定置用蓄電システム向けチタン酸リチウム負極系 リチウムイオン電池の実用化と展望」

東芝(株) 研究開発センター 首席技監 高見則雄 氏

14:25~14:35 休憩

14:35~15:25 【講演2】

> 「積水化学が進めるV2Hおよび家庭・町のエネルギーマネジメント」 積水化学工業 R&D センター

開発推進センター EMS グループ 参事 梅岡 尚 氏

15:25~16:15 【講演3】

> 「豊田市が進める低炭素社会づくり―ミライのフツーを目指そう―」 豊田市 介画政策部 環境モデル都市推進課 主幹 酒井 斉 氏

16:15~16:20 閉会挨拶

豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 教授 櫻井庸司

世話人・問合せ先 : 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 櫻井庸司

e-mail: sakurai@ee.tut.ac.jp , Tel./FAX: 0532-44-6722

参加申込書 以下の内容をFAXまたは e-mail でご連絡ください。

【申込先】未来ビークルシティリサーチセンター(研究支援課研究センター係)

FAX: 0532-44-6568 e-mail: rcfvc@office.tut.ac.jp

お名前		
所属・役職		
TEL	FAX	
e-mail		

^{*}参加申込〆切: 平成 27 年 11 月 26 日(木) ただし, 事前申込みがなくてもご参加いただけます。



国立大学法人 豊橋技術科学大学

EIIRIS プロジェクト研究成果報告会

EIIRIS

未来創造における価値の変革とイノベーションー

開催日:平成27年12月7日(月)

講演会会場:国立大学法人豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端融合研究所

ベンチャービジネスラボラトリー3階 プロジェクト研究交流室

(http://www.vbl.tut.ac.jp)

【参加料】

講演会参加費:無料/昼食会参加費:1,500円

【申込み】

豊橋技術科学大学 EIIRIS ホームページ (http://www.eiiris.tut.ac.jp) 又は VBL ホームページ (http://www.vbl.tut.ac.jp) に掲載されている参加申込書の記入要領に従って、E-mail (event-office@eiiris.tut.ac.jp) または Fax(0532-81-5133)でお申込みください。定員 (60名) になり次第、申込み受付は締め切らせていただきます。

【EIIRIS プロジェクト研究成果報告会ープログラムー】

09:30~ 受付開始

10:00~10:05 開会挨拶

豊橋技術科学大学 学長 大西 隆

 $10:05\sim10:55$ 招待講演 I 「橋を渡すためのヒント 研究や技術を医療に貢献するには」

NPO 医工連携推進機構 客員研究員 吉川 典子

10:55~11:45 招待講演Ⅱ「写真フイルムからヘルスケア事業への変革(仮)」

富士フイルム株式会社 再生医療事業推進室 室長 横川 拓哉

11:45~12:00 移動

12:00~13:30 昼食会/ポスターセッション

EIIRIS プロジェクト研究成果報告

13:40~13:50 **EIIRIS** プロジェクト研究概要

豊橋技術科学大学 副学長/エレクトロニクス先端融合研究所 所長/

電気・電子情報工学系 教授 石田 誠

13:50~14:10 研究成果報告①「外部刺激による概日リズム発振の時空間的機能マップの作成と生理活動の調節」

豊橋技術科学大学 環境·生命工学系 准教授 沼野 利佳

14:10~14:30 研究成果報告②「ヒトの生体情報処理を利用したロボットの環境認識機能の向上」

豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端融合研究所 准教授 南 哲人

 $14:30\sim14:50$ 研究成果報告③「光ファイバー束による脳神経細胞のラベルフリー機能イメージング」

豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端融合研究所 准教授 鯉田 孝和

14:50~15:10 研究成果報告④「生体試料と微細加工技術を融合したデバイス開発とその応用研究」

豊橋技術科学大学 特任講師 三澤 宣雄

15:10~15:30 研究成果報告⑤「マイクロ超音波モータに関する研究開発」

豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端融合研究所

テニュアトラック助教 真下 智昭

15:30~15:50 休憩

15:50~16:40 **招待講演皿「極限環境探査を目的としたフィールドロボットの研究開発と実証実験」**

慶應義塾大学 理工学部機械工学科 専任講師 石上玄也

16:40~16:45 閉会挨拶

 $16:50\sim18:00$ 施設見学 集積回路/センサ/MEMS デバイス研究施設(「LSI 工場」)/異分野融合研究施設

(EIIRIS-1)見学 (希望者)

	ポスターセッション(ひばりラウンジ)
1	LSI・MEMS 技術を用いた非標識バイオセンサに関する研究
1	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 講師 高橋 一浩
2	マイクロ・ナノ構造創成技術および BioMEMS デバイスの開発
	豊橋技術科学大学 機械工学系 教授 柴田 隆行
3	藻類培養用のバイオリアクターの開発
	豊橋技術科学大学 機械工学系 助教 横山 博史
4	多孔質酸化物電極を用いた高性能色素増感型全固体太陽電池の構築
	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 教授 松田 厚範
5	シリコン基板上に垂直配向した酸化亜鉛ナノワイヤの作製
	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 准教授 石山 武
6	3Dマイクロ/ナノワイヤーの集積化技術とデバイス応用
	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 准教授 河野 剛士
7	生体関連物質検出のための有機複合膜を利用した化学センサの開発 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 准教授 服部 敏明
8	・ ・
0	フィスクリートマイクロ化学アバイスの開発技術研究 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 准教授 村上 裕二
9	室化物半導体を基礎にした半導体材料の開発及び光・電子デバイスへの応用
	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 講師 関口 寛人
10	磁気光学3次元ディスプレイの開発
	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 講師 高木 宏幸
11	ナノ構造を応用した高機能窒化物半導体デバイスの開発
	豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端融合研究所 准教授 岡田 浩
12	知能性基板上への集積化マイクロデバイスの研究開発
	豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端融合研究所 助教 赤井 大輔
13	多チャンネル計測デバイスを用いた網膜色情報処理ダイナミクスに関する研究
	豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端融合研究所 特任助教 針本 哲宏
14	集積化 MEMS 技術による細菌検知デバイスの開発 豊橋技術科学大学 リーディング大学院教育推進機構 特任教授 石井 仁
15	ラマン分光法を用いたリチウムイオン電池電極関連材料の表面構造解析
10	プペンガル伝を用くたファクスイベン電池電極関連行行の表面情色所列 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 教授 櫻井 庸司
16	イオンイメージセンサの異分野融合展開研究
	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明
17	次世代機能性材料のプロセス・評価技術の開発研究
	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 教授 滝川 浩史
18	表面プラズモンを用いたフォトニック集積回路の開発
	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 教授 福田 光男
19	室化物半導体光電子融合デバイスの開発研究 ************************************
	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 教授 若原 昭浩
20	付加製造技術を飛躍的に高度化する機能性複合粉末の大量合成技術の確立
0.1	豊橋技術科学大学 総合教育院 教授 武藤 浩行 高機能信号処理 LSI とフレキシブルデバイスの融合プロセスの開発
21	筒機能信号処理 LSI とフレギンフルケハイスの融合プロピスの開発 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 助教 秋田 一平
22	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	とは物中等体を用いた実質に602 とうりの実現といかりと、ラル環境とうりに同りた場合
23	Si 基板上高効率多接合太陽電池に向けた GaAsPN 混晶の開発
	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 助教 山根 啓輔
24	バンドギャップを有する二次元材料を用いたデバイス開発
	豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端融合研究所 テニュアトラック助教 高村 司
25	新しい Human-Machine コミュニケーションツールの開発
	豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端融合研究所 特任講師 大井 英生

平成27年度 定例記者会見日程予定

第1回 平成27年 4月14日(火)11:00~

第2回 平成27年 5月12日 (火) 11:00~

第3回 平成27年 6月23日(火)11:00~

第4回 平成27年 7月14日 (火) 11:00~

第5回 平成27年 9月 9日 (水) 11:00~

第6回 平成27年10月20日(火)11:00~

第7回 平成27年11月17日(火)11:00~

第8回 平成27年12月15日(火)11:00~

第9回 平成28年 1月19日 (火) 11:00~

第10回 平成28年 2月16日(火)11:00~

場所はすべて本学大会議室(事務局3階)を予定しています。場所、 日程は現時点での予定であり、都合によって変更の場合があります。定 例以外に臨時で記者会見を行う場合があります。

以上